

鷲林寺と観音山・仁川上流を歩く

第 68 回武庫川エコハイク
2012.12.08.エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km² 篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

湯の口取水口 仁川本流の盤滝口にある。下部と山の南麓の広田神社一帯の社家郷山の水は仁川本流に流れ、社家郷に流れないのでこれを社家郷に流そうと仁川から取水するため堰を設け、トンネルを掘り湯の口とした。仁川下流の五ヶ庄(大市庄ほか)の農民がこれを妨害しようとしたが、広田神社神官であった中村紋左衛門が神官の装束に般若の面をつけて岩上に立ちこれらの農民を畏れさせ作業が順調に進んだという伝承がある。広田神社境内に「兜麓底績碑(とろくていせきひ)」が建てられている。今は北山貯水池から夙川に送られている。

西宮トランプ修道院 シトー会西宮の聖母修道院。昭和 44(1969)年村野藤吾の設計により建築された。

鷲林寺(じゅうりんじ) 天長 10(833)年淳和天皇の勅願により弘法大師が開祖した真言宗の寺院である。最盛時には 76 坊を数えていたが、天正 7(1579)年荒き村重の乱の戦火で焼かれた。今は観音堂、多宝塔などがある。参道右側墓地の西隅にある石造七重塔は市内最古の石造遺品として市の文化財とされている。これは武田信玄の墓とも言われる。

鷲林寺の伝承 弘法大師が観音霊場の地を求めてこの地に來たときソラジンといわれる神が口から火を吹き大師の入山を妨げた。大師は傍らの木を切り、湧き出る六甲の清水を浸して加持をし、大鷲を桜の霊木に閉じ込めた。この霊木で本尊十一面観音を刻み寺号を鷲林寺と名付けソラジンは荒神として祀られた。

観音山 標高 526m。鷲林寺の西にある。山頂からの東側甲山、北山貯水池、大阪平野などの展望は素晴らしい。

甲山 標高 309m。甲山は六甲山と異なり、およそ 1200 万年前に噴火によって生まれた二上山、石鎚山、屋島と同じ安山岩質の山である。初めは今より裾野の広い大きな山であったが風化によって火口付近だけが残り現在の山容になった。六甲変動が起きたのは 50~60 万年前のため、甲山は古代湖に浮かぶ島であったという。(登らないが説明)

大阪湾フェニックスセンター助成

北山貯水池 西宮市上水道の貯水池。昭和 43(1968)年完成の人造湖で 5 つのアースダムからなり、観音川、仁川の水を集め北山および越水浄水場へ送水される。放水路(=夙川起点)は水分谷を経て銀水橋付近で夙川上流に注ぐ。

奥池 天保年間芦屋村年寄猿丸又左衛門ほか約 20 年の年月をかけて完成させたため池。面積 38 ヘクタール。昭和 47 年に南接して奥山池が完成芦屋市の上水道源となった。周辺は昭和 33(1958)年芦屋市の財界人が設立した芦有開発(株)が有馬と芦屋を結ぶ有料道路「芦有ドライブウェイ」の建設(昭和 36 年開通)、周辺住宅開発(昭和 44 年~)、兵庫県ユースホテル(平成 12 年閉館)、兵庫県ユネスコ会館(同 61 年閉館)を誘致した。

大藪谷 観音山から仁川上流に注ぐ。

仁川 西宮夷神に山の幸を奉ずるに贅部(にえぶ)が住んでいたことから贅川(にえかわ)が訛ったものか、天井川で大雨の時にしか流れないにじみ川からとか言われている。六甲山頂近く石の宝殿の南側に源流を持ち、甲山の北側を通り、仁川渓谷を抜けて流れる。暴れ川仁川の河川改修が完成したのは大正 10(1921)年。

盤滝 仁川上流にある滝のひとつ。落差約 10m。

小笠峠 六甲山から檜ヶ峰に通ずる峠で、逆瀬川と仁川の分水嶺

逆瀬川 六甲山系大平山南側を源流として花崗岩の六甲山東麓部を流下し宝塚ゴルフ場を経由して宝塚市で武庫川に合流する。延長約 6.5km、標高差約 200m の急傾斜の河川。川が逆流するとか流れが早いことから「逆瀬川」の名前がついたといわれる。

逆瀬川の谷 逆瀬川谷の北側に譲葉山(ゆずりはやま)南側に檜ヶ峰(かしがみね)がある。譲葉は枕草子にも出てくる地名であるが、この辺りには植物のユズリハは自生していないので「ゆする」から来ているといわれる。また檜ヶ峰の「かし」はかしく(急傾斜地)からといわれ、この地帯の地形を示すものと思われる。

エデンの園 聖隷福祉事業団(浜松市)の老人福祉施設

千石ずり 一雨で千石の土砂が流れたといわれる大規模土石流の跡。譲葉山の南面にあたる。現在は六甲砂防が施工されている。

逆瀬川砂漠 逆瀬川の下流部で宝塚ゴルフ場とその下流は「逆瀬川砂漠」と呼ばれ幅は 300m に及んだ。

逆瀬川の砂防 明治 25(1892)年発生した大水害は六甲山の災害対策に目が向けられ、良元砂防工営所が設置され、明治 32(1899)年上流から工事が行われた。

ゆずり葉緑地公園 逆瀬川砂防事業の関連事業として宝塚市が平成 2 年に完成した。

砂防モニュメント ゆずり葉緑地の一角に県が「逆瀬川砂防学習モデル事業」として平成 2 年砂防モニュメントが作られ砂防の歴史等についての展示がされている。ゆずり葉緑地に隣接する逆瀬川には種々の堰堤(自然石積堰堤、鎧石積堰堤)が設置されている。

逆瀬川の開発 逆瀬川の砂防工事により下流部で 2~300m あった河原が陸地に変わり、良元村の庄屋平塚嘉右衛門が、ゴルフ場、住宅地の開発を行い、現在の逆瀬川の景観となった。この土地の売却代金が工事費に当てられたという。